

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	旧約聖書を学ぶ						
担当教員	宮田 玲					科目ナンバー	Z12030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	モーセ五書を読む						
授業の概要	モーセ五書とは、旧約聖書の最初におかれた五つの書のこと、「創世記」、「出エジプト記」、「レビ記」、「民数記」、「申命記」を指します。ここには旧約聖書でもっとも基本的な内容が記されていて、エデンの園やノアの箱舟など、わたしたちにもなじみのある多くの物語が含まれています。また、新約聖書のエピソードの背景となっているものもあります。授業では、モーセ五書を読みすすめながら、旧約聖書についての理解を深めていきます。特に、「創世記」と「出エジプト記」からはいくつかの物語を取り上げて、これまでどのように読まれてきたかを紹介します。						
到達目標	旧約聖書の中で主要な位置を占めるモーセ五書について基本的な知識を獲得でき、書かれている内容や物語に対する理解を養うことができます。また、旧約聖書とのかかわりから新約聖書を眺める視点を育てることができます。						
授業計画	第1回 新約聖書と旧約聖書、聖書の舞台 第2回 モーセ五書の成り立ち 第3回 物語（1） アダムとイブの物語 第4回 物語（2） ノアの洪水 第5回 物語（3） バベルの塔 第6回 物語（4） アブラハムとサラの物語 第7回 物語（5） 小テスト・サラとハガルをめぐる 第8回 物語（6） イサク奉獻 第9回 物語（7） イサクとリベカ 第10回 物語（8） ヤコブとエサウ 第11回 物語（9） 出エジプト：モーセ 第12回 物語（10） 出エジプト：エジプトから荒野へ 第13回 物語（11） 十戒 第14回 物語（12） カナンへ：モーセの死 第15回 まとめ、質疑応答と試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：前回の授業で取り上げた聖書の箇所を読み直して、前回の内容を復習してきてください。（所要時間：20分） 授業後学習：授業時に配布するプリントに授業内容の要点をまとめてください。（所要時間：40分）						
授業方法	講義 授業で取り上げるテーマにしたがって受講生による意見交換とディスカッションを行ないます。						
評価基準と評価方法	学期末試験 60％：基本的な用語の確認と、聖書をどのように読めるかという二点を主として、授業で学んだことの理解度を評価します。 平常点 40％：毎回の聖書箇所朗読と小テストに加え、随時レスポンスペーパーの提出を求めます。						
履修上の注意	毎回プリントを配布します。出席者のみ受け取ることができます。 12回以上の出席を求めます。						
教科書	指定しません。						
参考書	並木浩一・荒井章三（編）『旧約聖書を学ぶ人のために』 世界思想社 ISBN:978-4790715566 石川立・中村信博・越後屋朗（編）『聖書 語りの風景』 キリスト新聞社 ISBN:978-4873954762 また、授業内で関連参考図書を紹介いたします。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	教会音楽入門A						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	Z1213A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教音楽の歴史を概観し、聖歌を歌うことの意味を知る。 歌うための体と息の使い方に気付く。						
授業の概要	キリスト教における音楽の役割を理解するため、西洋音楽の歴史を概観し、代表的な宗教曲を鑑賞する。教会暦について確認するとともに、「聖歌集」や「讃美歌」で用いられる言葉の意味を知り、それらを美しい響きで歌うための基礎的な発声方法を学ぶ。アンサンブルができるようになるため、読譜力や聴く力のトレーニングも行う。中間発表と期末試験を実施する。						
到達目標	キリスト教における音楽の役割について、予備知識のない人がわかるように説明することができる。 身体の使い方と息の流れを感じて歌えるようになる。 歌詞の意味を理解し、初歩的な声楽アンサンブルのレパートリーが歌えるようになる。						
授業計画	第1回： 授業の進め方について 及び 教会暦について 第2回： 西洋音楽の歴史1（古代） 及び 発声の基礎 立ち方 第3回： 西洋音楽の歴史2（中世） 及び 発声の基礎 腹式呼吸 第4回： 西洋音楽の歴史3（ルネサンス）及び 受難のコラールと復活のコラールについて 第5回： 楽典1 及び 受難のコラール 日本語の聖歌 第6回： 楽典2 及び 復活のコラール 日本語の聖歌 第7回： 楽典3 及び 合唱曲（2声）・発声の基礎 重心 第8回： 西洋音楽の歴史4（バロック）合唱曲（2声）・発声の基礎 腹筋と背筋 第9回： 西洋音楽の歴史5（古典派）合唱曲（2声）・発声の基礎 表情筋について 第10回： 西洋音楽の歴史6（ロマン派）ラテン語の合唱曲（2声）・発声の基礎 母音について 第11回： 楽典4 及び ラテン語の合唱曲・発声の基礎 子音について 第12回： 楽典5 及びラテン語の合唱曲・発声の基礎 背中面 第13回： 西洋音楽の歴史7（近現代） 及び 合唱曲・発声の基礎 体を開く① 第14回： 楽典のまとめ 及び 合唱曲・発声の基礎 体を開く② 第15回： まとめと 期末テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で扱う課題曲について、読譜の予習をし、指定した参考図書等により歌詞の意味や発音の下調べをしておくこと。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習 実際にチャペルで歌う。 課題曲の演奏について、互いに聴きあい、改善点などについてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での積極的な取り組みなど平常点の評価が70パーセント。期末試験が30パーセント。 出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	音名による読譜、教員の範唱や履修生で声を聞きあう体験をし、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねる。 そのため、基本的な読譜ができることが望ましい。						
教科書	そのつど楽譜を配布する						
参考書	「キリスト教と音楽」 金澤正剛著 音楽之友社 「聖歌集」日本聖公会 「合唱音楽の歴史」皆川達夫著 全音楽譜出版社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	教会音楽入門B						
担当教員	奥村 正子					科目ナンバー	Z1213B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教音楽について知識を深めるとともに、アンサンブルをする楽曲のレパートリーを増やす。歌うための体と息の使い方を知り、鋭敏な耳と音楽的な身体感覚の獲得を目指す。						
授業の概要	キリスト教の礼拝において音楽の果たす役割を学ぶ。様々な宗教的声楽曲について知るとともに、ルター派のコラールや、2声または3声の宗教的合唱曲（日本語、ラテン語、ドイツ語など）を歌うための技術を習得する。さらにクリスマスの聖歌を実際の礼拝などで歌えるよう、実技指導を行う。中間発表と期末試験を行う。						
到達目標	キリスト教における音楽の役割について、予備知識のない人がわかるように説明することができる。身体の使い方と息の流れを感じて歌えるようになる。歌詞の意味を理解し、初歩的な声楽アンサンブルのレパートリーが歌えるようになる。						
授業計画	第1回：授業の進め方 及び教会暦について 第2回：キリスト教と音楽について 及び 待降節のコラール 第3回：発声 1 （呼吸） 及び 待降節のコラール 第4回：受難と復活について 及び 待降節のコラール 第5回：発声 2 （表情筋など）及び 待降節のコラール 第6回：「オラトリオ」と「レクイエム」について 第7回：声楽アンサンブルへの準備 1（読譜を中心に） 及び 降臨節のコラール 第8回：声楽アンサンブルへの準備 2（発音を中心に） 及び 降臨節のコラール 第9回： クリスマスの声楽曲について および降臨節のコラール 第10回： クリスマスの器楽曲について および降臨節のコラール 第11回： 聖歌の歌い出し指示について 及び 宗教的歌曲 1 第12回： 聖歌の伴奏について 及び 宗教的歌曲 2 第13回： 宗教的歌曲 3 第14回：発声の発展 とまとめ 第15回：まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で扱う課題曲について、読譜の予習をし、指定した参考図書等により歌詞の意味や発音の下調べをしておくこと。（学習時間：2時間）						
授業方法	演習 実際にチャペルで歌う。 課題曲の演奏について、互いに聴きあい、改善点などについてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業での積極的な取り組みなど平常点の評価が70パーセント。期末試験が30パーセント。出席回数が10回に満たない場合は評価の対象としない。						
履修上の注意	音名による読譜、教員の範唱や履修生で声を聞きあう体験をし、統一感のあるアンサンブルを目指して練習を重ねる。 そのため、基本的な読譜ができることが望ましい。						
教科書	そのつど楽譜を配布する						
参考書	「キリスト教と音楽」 金澤正剛著 音楽之友社 「聖歌集」日本聖公会 「合唱音楽の歴史」皆川達夫著 全音楽譜出版社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教思想Ⅰ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z12050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教思想入門						
授業の概要	本講座ではキリスト教の思想面に光を当てる。19世紀や20世紀の代表的なキリスト教思想家を取り上げ、その作品や著作の中で神・自由・悪・救い・正義などといった人間の本質に関わる諸問題がどのように扱われているかを考察する。また、彼らの生涯、聖書やキリストに対する理解、さらに彼らの属する社会や教会の特徴などにも注目し、彼らの思想をその時代的・社会的背景において理解することにも努める。						
到達目標	・ユダヤ教とキリスト教が西洋思想から受けた影響の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・講義中に紹介する思想家たちがそれぞれどのような中心テーマを持ち、どのような思想を展開したかを理解し、説明することができる。（知識・理解）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（講義内容の概略、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：神話（ミュトス）から理性（ロゴス）へ（フィロソフィア、哲学の誕生） 第3回：ソクラテス以前の哲学者たちの問題意識（タレス、ヘラクレイトス、デモクリトス、唯物論） 第4回：古代ギリシャ世界の宗教的社会的状況（敬神、正義、ポリス社会、ペルシャ戦争、ソフィスト） 第5回：ソクラテスとプラトン（無知の自覚、想起説、イデア論） — 第1回小テスト 第6回：アリストテレスの世界観（質料形相論、哲学者の神、第一の不動の動者） 第7回：ヘレニズムの思想（ストア派、アレクサンドリアのフィロン、新プラトン主義） 第8回：ユダヤ教とギリシャ哲学の出会い（民族主義と普遍主義、一神教、七十人訳聖書、アポクリファ） 第9回：ユダヤ教文学（黙示文学、知恵文学、ヨブ記、悪、神義論） 第10回：イエス時代の宗教的社会的状況（洗礼者ヨハネ、メシア待望思想、神の国） — 第2回小テスト 第11回：原始キリスト教団の信仰（ステファノの神殿批判、パウロの宣教、隣人愛と愛敵） 第12回：使徒的伝承とキリスト論論争（ドグマ、アリウス派、ネストリウス派、三位一体論） 第13回：キリスト教思想の形成（アウグスティヌス、中世キリスト教思想、トマス・アクィナス） 第14回：ルネサンスと宗教改革（ヒューマニズム、神中心主義から人間中心主義） 第15回：キリスト教思想の展開（講義の総括と展望） — 第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	加藤隆『一神教の誕生：ユダヤ教からキリスト教へ』講談社現代新書 山田晶『トマス・アクィナスのキリスト論』創文社 日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と諸宗教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ－	Z12090
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	多元時代のキリスト教と諸宗教						
授業の概要	国際的な人の移動が日常化し、諸宗教が相接する機会が増えた今日、世界の諸宗教をより良く理解することが不可欠になっている。本講座の目的は世界の主要宗教を概観すると共に、それとの比較を通してキリスト教についての理解を深めていくことにある。まず宗教とは何かを考え、旧新約聖書の信仰を踏まえた上で、キリスト教と共に世界宗教である仏教やイスラム教などを取り上げ、これらをキリスト教と対比する。また、日本人の宗教性にも光を当てる。こうした私たちの生きる「地球村」への理解を深めることも本講座の目的である。						
到達目標	・世界の諸宗教に見られる多様な信仰構造について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・日本人の宗教観と日本の宗教の基礎について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・ユダヤ教とキリスト教の関係史について理解し、説明することができる。（知識・理解） ・諸宗教に関する学びを通して、異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：宗教の起源（考古学的成果に見る宗教の萌芽、19世紀の宗教研究、アニミズム） 第3回：神話（神話の源流、創世神話の類型、世界創世神話の事例、旧約聖書「創世記」、神話批判） 第4回：儀礼（宗教儀礼と年中行事、消極的儀礼と積極的儀礼、イニシエーション） 第5回：日本人の宗教観（宗教統計調査、宗教意識の国際比較、神道、仏教、神仏習合） —第1回小テスト 第6回：近代日本の宗教政策（キリスト教の受容、国家神道、祭政一致と政教分離、神仏分離令） 第7回：国教制度と政教分離（西洋の国教制度史、宗教改革と国教制度、近代革命と政教分離） 第8回：宗教間の関係（ユダヤ教、イスラム教、キリスト教、共通性と相違、正典の構造） 第9回：古代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（ディアスポラ、タキトゥス、新約聖書、古代教父） 第10回：中世におけるユダヤ教とキリスト教の関係（エクレシアとシナゴグ、十字軍、『ヴェニス商人』） —第2回小テスト 第11回：近代におけるユダヤ教とキリスト教の関係（近代革命、啓蒙思想、ハスカラ、ユダヤ知識人） 第12回：反ユダヤ主義とショアー（ホロコースト、コルベ神父、エディット・シュタイン、『夜と霧』） 第13回：反ユダヤ主義の思想的根拠（無神論、フォイエルバッハ、マルクス、ニーチェ） 第14回：現代におけるユダヤ教とキリスト教（第二バチカン公会議、ヨハネ・パウロ2世、ダブルー・エメト） 第15回：宗教間対話の展開（講義の総括と展望） —第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に3回の小テストを実施する。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト70%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	石井研士『プレステップ宗教学（プレステップシリーズ 08）』弘文堂 小原克博『一神教とは何か——キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために』（平凡社新書）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教と文化Ⅰ						
担当教員	岩井 謙太郎				科目ナンバー	Z12070	
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	近現代日本文学とキリスト教の関わり						
授業の概要	本講義では、明治から現代までのキリスト教作家やキリスト教をモチーフとした文学作品（主にベストセラー小説）を取り上げて紹介し、それらを手がかりとして近現代日本文学とキリスト教の関わりについて考察することを通じて、キリスト教思想の特性を明らかにする。						
到達目標	近現代日本文学作品に見られるキリスト教思想を考察することにより、キリスト教と日本の文化との関わりについての理解を深めることができる。						
授業計画	以下のテーマを中心に授業を進めていく。 第1回 オリエンテーション／キリスト教と文化の関係性 第2回 キリスト教思想の諸特性① 創造論 第3回 キリスト教思想の諸特性② 救済論 第4回 キリスト教思想の諸特性③ 終末論 第5回 日本文学とキリスト教の接点 第6回 夏目漱石『こころ』（1914年） 第7回 有島武郎『惜しみなく愛は奪う』（1920年） 第8回 キリスト教における愛の問題 第9回 志賀直哉『暗夜行路』（1922年） 第10回 キリスト教における救済の問題 第11回 三浦綾子『氷点』（1965年） 第12回 キリスト教における原罪の問題 第13回 遠藤周作『深い河』（1993年） 第14回 キリスト教の他宗教との関わり 第15回 まとめ／近現代日本文学におけるキリスト教思想						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で取り扱うキーワードについて書籍やインターネット等で調べておくこと（学習時間2時間） 授業後学習：授業で学んだ学習内容をノートにまとめて整理・確認すること（学習時間2時間）						
授業方法	講義科目ではあるが、授業内容に対する意見や要望などをアンケートし、出来るだけ受講者各人の主体的関心を反映させながら授業を進めたい。また、理解の一助となるよう、映像（DVD等）の鑑賞も採り入れる予定である。						
評価基準と評価方法	学期末に提出するレポート（60%） 平常点【感想文および授業に対する積極的な取り組み】（40%）						
履修上の注意	授業回数の3分の2以上の出席に満たない受講者はレポートの提出資格を失うものとする。						
教科書	教科書は使用しない。 レジュメを適宜配布する。						
参考書	安森敏隆他編『キリスト教文学を学ぶ人のために』世界思想社、2002年 その他、講義テーマに即した参考文献を授業内で随時紹介していく。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ） 第5回：出エジプト記（モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ） 第5回：出エジプト記（モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。						
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ） 第5回：出エジプト記（モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列							
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ							
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門							
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。							
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）							
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ） 第5回：出エジプト記（モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）							
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。							
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答）							
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。							
教科書	なし。随時プリントを配布する。							
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列							
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学Ⅰ							
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門							
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。まずキリスト教の基本的特徴および歴史の概略を学ぶ。次いでイエス時代のユダヤ社会の特質や旧新約聖書を概観した上で、福音書を読みながら、十字架と復活に至るイエスの生涯とその教えを考察しつつ、その今日的意義について探りを入れていく。							
到達目標	・キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・旧約聖書と新約聖書の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教のメッセージに通じるものを、人々の生き方や世界における様々な出来事に見出すことができる。（汎用的技能）（態度・志向性）							
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要と進め方、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：聖書の構造と成立史 第3回：創世記（天地創造、アダムとエバ） 第4回：創世記（アブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフ） 第5回：出エジプト記（モーセ、主の過越し、十戒）、第1回小テスト 第6回：レビ記、民数記、申命記 第7回：ヨシュア記、士師記、サムエル記 第8回：王国時代とバビロン捕囚、捕囚後のユダヤ思想、アポクリファ 第9回：イエス時代の宗教的・社会的状況（「神の国」、メシア待望、選民思想） 第10回：「神の国」をめぐるイエスと洗礼者ヨハネの言説、第2回小テスト 第11回：イエスの教え①（公生活、誕生場面に見る最初の来客、山上の説教） 第12回：イエスの教え②（神への愛と隣人愛、善きサマリア人のたとえ話、愛敵の思想） 第13回：裁判、死刑、復活（最高法院、神流罪、ポンシオ・ピラト、十字架刑） 第14回：聖霊降臨と使徒的伝承（使徒、救済の意味、原罪、ドグマ） 第15回：キリスト教の展開（まとめと展望）、第3回小テスト							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）							
授業方法	講義。一部の授業でグループワークと発表を行うことがある。							
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト60%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・平常点10%（グループワークへの取り組み、質疑応答）							
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。							
教科書	なし。随時プリントを配布する。							
参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 竹下節子『知の教科書 キリスト教』講談社							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列							
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I							
担当教員	木原 桂二					科目ナンバー	Z11020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門							
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 そこで、キリスト教の信仰・思想・文化にとって重要な意味を持つ「聖書」の理解を深めることを目指し、その歴史と概観を中心に扱う。具体的には、キリスト教信仰の出発点となるユダヤ教の歴史と、イエス・キリストの活動についての理解を得ることができるよう、聖書の内容に触れていく。							
到達目標	●キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ●旧新約聖書の概略を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ●イエス・キリストの生涯と教えを知り、理解すること。 ●聖書の重要な言葉を覚え、意味を理解すること。 ●キリスト教が、現代人であるわれわれにとって、どのような意味を持つものであるかを考えられるようになること。							
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 キリスト教の基礎知識としての旧約聖書 ユダヤ人の聖書と歴史 第3回 キリスト教の基礎知識としての新約聖書 イエスの登場と歴史 第4回 旧約聖書（1）天地万物の創造－創世記 第5回 旧約聖書（2）言葉と人間－創世記 第6回 旧約聖書（2）虐げられた人々の解放－出エジプト記 第7回 旧約聖書（3）偶像崇拜禁止について－出エジプト記 第8回 旧約聖書（4）神からの警告－アモス書 第9回 旧約聖書（5）苦難の意味－ヨブ記 第10回 新約聖書（1）神の国について ※以下、主に「福音書」の内容を中心とする 第11回 新約聖書（2）罪と赦しと和解について 第12回 新約聖書（3）富の問題について 第13回 新約聖書（4）「いのち」について 第14回 新約聖書（5）隣人愛について 第15回 期末試験とまとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	キリスト教科目は受講生の予備知識が不足しがちであるから、以下の要領で準備・復習をすること。 授業前準備学習：授業日の一週間前にmanabaにアップするレジュメを熟読し、指定した参考書等によって下調べをすること（学習時間：2時間）。 授業後学習：毎回必ず授業で学んだことを確認すること（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい）。また、授業中に言及する聖書箇所を熟読吟味すること（学習時間：2時間）。 ●新約聖書中の4つの福音書の通読（レポート提出あり）。 ●聖書に含まれる文書の名称を覚えること（試験で確認する）。							
授業方法	基本的に講義形式で行うが、必要に応じてディスカッションを行うことで、授業で学んだ基礎知識を深めていくようにする。							
評価基準と評価方法	課題点と平常点によって評価します（原則として課題点70%、平常点30%）。 平常点は、授業内小レポートや小テストなどにより評価します。 また、私語など授業態度の良し悪しも成績に影響します。							
履修上の注意	4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 初回の授業で評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は初回授業を欠席しないようにして下さい。							
教科書	●『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編付き） 日本聖書協会。 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。 ●配布資料を用いて授業をします。配布資料は前もって松蔭manabaにアップするので、各自印刷して授業に持参して下さい。							
参考書	参考文献は、必要に応じて授業中に紹介します。							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	濱崎 雅孝					科目ナンバ－	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門 キリスト教の文化、思想が私たちの生活にも大きく影響していることを知る。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにある。 キリスト教の思想は西洋文化の土台となっているので、それを学ぶことによって国際社会で生きるための確かな知恵と知識を習得できます。						
到達目標	1. キリスト教について、基本的なことを自分の言葉で説明できるようになること。 2. 旧約・新約聖書の概要を知り、主要な文書の名称と特徴を覚えること。 3. イエス・キリストの生涯と言葉、その後世への影響について理解すること。						
授業計画	第1回「キリスト教の基本思想」クリスチャンは何を信じているのか？ 第2回「天地創造」世界は神が創った？ビッグバンで始まった？ 第3回「アダムとエバ」最初の男と女、最初の結婚、そして最初の罪・・・。 第4回「カインとアベル」最初の兄弟、最初のライバル、そして最初の殺人・・・。 第5回「ノアの箱舟」墮落した人間は滅ぼされる？ 第6回「バベルの塔」もし世界の言語が一つだったら・・・。 第7回「アブラハムとイサク」もし自分の息子を殺せと言われたら・・・。 第8回「イスラエル民族とユダヤ人」世界史を動かしている主役は誰だ？ 第9回「イエスの誕生」イエスは神か人か？ 第10回「聖母マリア」マリアの処女降誕なんて、ありえない？ 第11回「イエスの癒し」イエスが病人を治したのは医術か奇跡か？ 第12回「十字架」この悲惨な刑罰は本当に必要だったのか？ 第13回「復活」死んだ人はどこに行くのか？ 第14回「キリスト教と日本文化」私たちは知らないうちにキリスト教の影響を受けている？ 第15回「まとめと期末試験」						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業で取り上げた聖書の箇所を各自で通読する（学習時間：2時間）。						
授業方法	講義形式です。講義内で出された問題について、各自の意見を発表し、それについて賛成・反対に分かれてディスカッションを行います。ディスカッションに慣れていない学生も、授業内レポートを通して、議論に参加してもらいます。						
評価基準と評価方法	授業内レポート・期末試験：70％、平常点：30％						
履修上の注意	4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 細かい点数配分などについては、初回の授業で説明します。						
教科書	『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約続編付き）日本聖書協会 ※すでに聖書を持っている学生は、初回の授業で講師に相談して下さい。						
参考書	必要に応じて講義内で紹介します。						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列							
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I							
担当教員	松平 功					科目ナンバー	Z11020	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門：国際人に必要とされる基本的な聖書の知識を得る。							
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにあります。 まず、古代ユダヤ教からキリスト教成立に至るまでの経緯と、現代日本に見られるキリスト教からの影響などを学び、また、聖書とその成り立ち、キリスト教の成立から世界への広がりも見えていきます。その説明の一部では、有名なキリスト教絵画を見て頂き、その絵画の訴えているメッセージを聖書で確認することもあります。また、沢山存在するキリスト教の教派の違いをできる限り簡単に解説し、世界に広がるキリスト教を概観します。							
到達目標	● キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ● 旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ● イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解すること。 ● 世界の常識とも言えるような、聖書のストーリーを知ること。							
授業計画	第一回 オリエンテーション 第二回 キリスト教とは何か 第三回 映像から見るイエス・キリスト：受難について 第四回 映像から見るイエス・キリスト：十字架と復活 第五回 旧約聖書の概要：天地創造から族長時代まで 第六回 旧約聖書の概要：出エジプトからカナン入植まで 第七回 旧約聖書の概要：カナン入植からソロモン王に至るまで 第八回 旧約聖書の概要：イスラエルの分裂からローマ帝国への属国時代まで 第九回 新約聖書の概要：イエスの降誕と時代背景 第十回 新約聖書の概要：イエスの宣教とその不思議の意味 第十一回 新約聖書の概要：イエスの語った様々なたとえと教え 第十二回 新約聖書の概要：イエスとその敵対勢力。なぜ十字架に架けられたのか 第十三回 新約聖書の概要：イエスの教える愛と、その行為 第十四回 新約聖書の概要：十字架での死と復活 第十五回 期末試験とまとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	● 毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくようにしてください（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい） ● 聖書の通読。ただし、内容が膨大ですので、4つの福音書だけでも通読しましょう。授業前の30分程度の読書で読み終えることが可能です。							
授業方法	講義形式。毎回の授業でその日のレジメを配布します。また、パワーポイントを使用するので視覚による学びも重視します。							
評価基準と評価方法	● クラスの後に小テストを何度か行う（合計40パーセント） ● 第15回目のクラスで期末試験を行う（40パーセント） ● 授業での発言や態度などの総合評価（20パーセント）							
履修上の注意	● 聖書を毎回持参すること。 ● 4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 ● 欠席や遅刻、教科書の不持参は減点対象となります。私語など好ましくありません。受講態度も同様です。 なお、初回の授業で評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は初回授業を欠席しないようにして下さい。							
教科書	『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編付き）日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。							
参考書	土井かおる著『よくわかるキリスト教』 PHP出版 ISBN：4-569-63494-X 『アートバイブル』日本聖書協会ISBN4-8202-4214-8 （注意：どちらの本も購入しなくて結構です。図書館で読んでください。）							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の基礎／キリスト教学I						
担当教員	松平 功					科目ナンバー	Z11020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教入門：国際人に必要とされる基本的な聖書の知識を得る。						
授業の概要	本講座の目的は、必修科目「神戸松蔭とキリスト教」の履修を終えた学生が、本学の建学精神の土台であるキリスト教に関する基礎的な知識、特にキリスト教の正典である旧新約聖書およびキリスト教信仰の中核をなすイエス・キリストについての基本的知識を習得することにあります。 まず、古代ユダヤ教からキリスト教成立に至るまでの経緯と、現代日本に見られるキリスト教からの影響などを学び、また、聖書とその成り立ち、キリスト教の成立から世界への広がりも見えていきます。その説明の一部では、有名なキリスト教絵画を見て頂き、その絵画の訴えているメッセージを聖書で確認することもあります。また、沢山存在するキリスト教の教派の違いをできる限り簡単に解説し、世界に広がるキリスト教を概観します。						
到達目標	● キリスト教の基本的特徴や歴史の概略を説明できるようになること。 ● 旧新約聖書の概要を知り、主要な旧新約文書の名称と特徴を覚えること。 ● イエス・キリストの時代背景および生涯と教えを知り、理解すること。 ● 世界の常識とも言えるような、聖書のストーリーを知ること。						
授業計画	第一回 オリエンテーション 第二回 キリスト教とは何か 第三回 映像から見るイエス・キリスト：受難について 第四回 映像から見るイエス・キリスト：十字架と復活 第五回 旧約聖書の概要：天地創造から族長時代まで 第六回 旧約聖書の概要：出エジプトからカナン入植まで 第七回 旧約聖書の概要：カナン入植からソロモン王に至るまで 第八回 旧約聖書の概要：イスラエルの分裂からローマ帝国への属国時代まで 第九回 新約聖書の概要：イエスの降誕と時代背景 第十回 新約聖書の概要：イエスの宣教とその不思議の意味 第十一回 新約聖書の概要：イエスの語った様々なたとえと教え 第十二回 新約聖書の概要：イエスとその敵対勢力。なぜ十字架に架けられたのか 第十三回 新約聖書の概要：イエスの教える愛と、その行為 第十四回 新約聖書の概要：十字架での死と復活 第十五回 期末試験とまとめ ※以上は計画ですので、変更となる場合もあります。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	● 毎回必ず復習を行って学んだことを確認し、次の授業に備えておくようにしてください（その際、疑問点を整理して、次の授業で教師に質問できるようにすることが望ましい） ● 聖書の通読。ただし、内容が膨大ですので、4つの福音書だけでも通読しましょう。授業前の30分程度の読書で読み終えることが可能です。						
授業方法	講義形式。毎回の授業でその日のレジメを配布します。また、パワーポイントを使用するので視覚による学びも重視します。						
評価基準と評価方法	● クラスの後に小テストを何度か行う（合計40パーセント） ● 第15回目のクラスで期末試験を行う（40パーセント） ● 授業での発言や態度などの総合評価（20パーセント）						
履修上の注意	● 聖書を毎回持参すること。 ● 4回以上欠席した学生は、原則として不合格とします。 ● 欠席や遅刻、教科書の不持参は減点対象となります。私語など好ましくありません。 なお、初回の授業で評価方法や出欠の取り方なども含めた履修上の注意事項を詳細に説明しますので、履修予定者は初回授業を欠席しないようにして下さい。						
教科書	『新共同訳聖書』（旧新約聖書、旧約統編なし）日本聖書協会 ☆既に聖書を持っている場合、初回の授業で担当者に相談してください。						
参考書	土井かおる著『よくわかるキリスト教』 PHP出版 ISBN：4-569-63494-X 『アートバイブル』日本聖書協会ISBN4-8202-4214-8 （注意：どちらの本も購入しなくて結構です。図書館で読んでください。）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教の歴史Ⅰ						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバ－	Z12060
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数 2.0
授業のテーマ	キリスト教史入門						
授業の概要	本講座ではキリスト教の歴史を学ぶ。キリスト教は古代のパレスチナにユダヤ教を母体として生まれながら、はやくも1世紀にはその民族的な枠を脱し、その後二千年の時をかけて数他の文化や言語の壁を越えて世界中に広まった普遍宗教である。その過程で、各地の文化や社会を造りかえると共に、自らも大きな変貌を遂げていった。こうして今日のキリスト教は極めて多様性に富む宗教となっている。キリスト教のこのようなクロスカルチャルな歴史的発展のプロセスを様々な視点から考察していくのが、本講座の課題である。						
到達目標	・ユダヤ教とキリスト教の歴史の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・聖書の成立史と翻訳の歴史の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・日本におけるキリスト教受容史の概要を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教史の学びを通じて、諸宗教と異文化への関心を高め、他者への敬意を意識することができる。（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） 第2回：イスラエル宗教誕生の背景（文明社会と遊牧生活、国づくりと宗教、風土論） 第3回：イスラエル民族の形成（創世記、出エジプト記、モーセ、律法、十戒） 第4回：イスラエル宗教の形成（イスラエル王国の統一、王国の南北分裂、罪と自己正当化） 第5回：ユダヤ教の誕生（バビロン捕囚、預言者、エルサレムの債権、新しい選民思想） —第1回小テスト 第6回：旧約聖書の成立（初期ユダヤ教、エズラの役割、初期の聖書翻訳、ディアスポラ、ヤムニアの会議）、 第7回：イエスとその時代（ガリラヤ地方の地理的特徴、ユダヤ教の諸分派、終末思想） 第8回：イエスと律法学者の論争（安息日、サマリヤ人、徴税人、罪の許し、真の権威） 第9回：イエスとは誰か（イエスの弟子たちのイエス観、使徒的伝承の形成） 第10回：新約聖書の成立（パウロの書簡、四福音書の成立、共観福音書、聖書外典） 第11回：聖書翻訳の歴史（聖書と言語、写本、ヒエロニムス、現代語訳聖書） —第2回小テスト 第12回：聖書翻訳の課題（「御大切」と「愛」「嗣業」、「ツアラアト」と「レブラ」、動物や植物の名称） 第13回：日本キリスト教史①（ザビエル、キリシタン、南蛮貿易、高山右近、伴天連追放令） 第14回：日本キリスト教史②（幕末維新期の宣教師、カクレキリシタンの発見、明治欧化政策と宣教師） 第15回：日本キリスト教史③（国家神道体制下のキリスト教、キリスト教学校の受難、戦後のキリスト教宣教） 第16回：現代の宗教地図とキリスト教（講義の総括と展望） —第3回小テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	・講義。一部の授業でグループワークを行なうことがある。 ・学期中に3回の小テストを行なう。						
評価基準と評価方法	・授業内での提出物30%（講義内容へのコメント、課題レポート） ・3回の小テスト70%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	八木谷涼子『なんでもわかるキリスト教大事典』（朝日文庫） 五野井隆史『日本キリスト教史』（吉川弘文館） 鈴木範久『聖書の日本語 翻訳の歴史』（岩波書店）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	キリスト教礼拝学						
担当教員	木鎌 耕一郎・藤井 尚人					科目ナンバー	Z12100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	キリスト教礼拝入門 ―その実際と歴史―						
授業の概要	本講座の目的はキリスト教会の中心的営みである「礼拝」に対する理解を深めることにある。礼拝行為の自覚的・批判的考察が目的であるため、礼拝に関する実際の経験が前提となる。（オムニバス方式／全15回）初回授業で本講座の概要を説明する。またチャペルでの2度の授業では聖歌を共に歌い、礼拝を実際に体験してディスカッションを行う。 歴史的視点からキリスト教礼拝を考察し、サクラメントや多様な礼拝形態に対する理解を養う。さらに礼拝と深い関わりを持つ教会音楽に触れる時を持つ。 本学と歴史的に関係の深い聖公会の礼拝を例として取り上げ、キリスト教礼拝の実際とその意味を考察する。聖公会の祈禱書、教会暦、聖餐式などについて順次学んでいく。						
到達目標	・キリスト教の礼拝に参加するために必要な基礎知識を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・キリスト教礼拝の歴史の概略と礼拝形式の多様性を理解し、説明することができる。（知識・理解） ・フィールドワークでの学び（チャペルでの礼拝体験、ヌーンサービス、主日礼拝）を通して、礼拝に対する興味をより具体的なものとして意識することができる。（態度、志向性）						
授業計画	A. イントロダクション 第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価方法に関する説明）（木鎌・藤井） 第2回：祈りと礼拝（木鎌） B. 聖公会における礼拝（藤井） 第3回：教会の一年 ～教会暦～ 第4回：「祈禱書とは何か」 ～イングランド国教会の歴史～ 第5回：キリスト教の結婚式 ～ロイヤル・ウェディング～ 第6回：世界の若者が集まるテゼ共同体 ～歌と祈り～ 第7回：知っておきたい聖歌 ～日本聖公会聖歌集より～ C. 歴史から見た礼拝（木鎌） 第8回：考古学に見る礼拝行為 第9回：諸宗教の礼拝形式 第10回：旧約聖書に見るユダヤ教の礼拝形式 ～主の過越し、ヨム・キップル～ 第11回：キリスト教の礼拝形式の成り立ち ～洗礼、主の晩餐、主の祈り～ 第12回：ミサ（聖餐式）について ～ミサの次第、教会の中に置かれている様々なものの意味～ D. 礼拝の体験 ～フィールドワーク～（藤井、木鎌） 第13回：本学チャペルでの礼拝体験（ヌーンサービス2回以上の出席を含む） 第14回：キリスト教会の主日礼拝への参与（1回目） 第15回：キリスト教会の主日礼拝への参与（2回目） ※ Dの「フィールドワーク」の時期は調整中であり、実際の授業週が13～15週にはならない場合がある。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。また、折に触れて「祈禱書」「聖歌集」に触れて、親しんでほしい。（学習時間：2時間） ・授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	・第1回から第12回は講義形式。 ・第13回から第15回は、フィールドワーク（実技形式）。 ・一部の授業でディスカッションを行うことがある。						
評価基準と評価方法	・課題点70%（2名の教員がそれぞれの担当講義の中で課すレポート、フィールドワーク（チャペルでの礼拝体験、ヌーンサービス2回以上、主日礼拝2回）後に課すレポート） ・平常点30%（リアクションペーパー、質疑応答、ディスカッションへの取り組み）						
履修上の注意	・4回以上欠席した学生は、原則として不合格とする。 ・フィールドワーク（チャペルでの礼拝体験、ヌーンサービス2回以上、主日礼拝2回）への参加は必須とし、これを満たさない場合は不合格とする。 ・主日礼拝の場所、日程等、移動方法等については授業時間内に知らせるので注意すること。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。 前もって指示された授業では聖書を持参すること。						

参考書	日本聖書協会『聖書協会共同訳聖書』もしくは『新共同訳聖書』 ウィリアム・ウィリモン『言葉と水とワインとパン〜』（新教出版社） エドワード・フォーリー『時代から時代へ』（聖公会出版） 『日本聖公会 祈祷書』（1990年） 『日本聖公会 聖歌集』（2006年）
-----	--

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	現代のキリスト教						
担当教員	木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z12080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	現代世界の諸問題とキリスト教						
授業の概要	従来キリスト教は西洋の宗教とされてきたが、16世紀以来世界中に伝えられ、今日ではいわゆる「世界キリスト教」へと変容しつつある。それに伴い、キリスト教の文化的多様性とその一致の問題に関心が向けられるようになった。また欧米を中心に進行した世俗化への反動として、人々の間に神との親密な関わりを回復しようとする渴望が広がり、「霊性」に対する関心が教派や地域を超えて深まりを見せている。この講義では、このような今日のキリスト教をめぐる諸問題に光をあて、歴史的視点も交えつつ現代世界におけるキリスト教信仰の意義に探りを入れていく。						
到達目標	・ 西洋思想とキリスト教において「人間の尊厳」という概念がどのようなものとして理解されているかを知り、概略を説明することができる。（知識・理解） ・ 現代社会の様々な倫理的課題とそれに対するキリスト教の関わりについて理解し、概略を説明することができる。（知識・理解） ・ グループワークと発表を通して、課題に応じて他者と共同して調べ、それをわかりやすく人に伝えることができる。（汎用的技能）（態度・志向性）						
授業計画	第1回：オリエンテーション（授業の概要、学習方法、成績評価に関する説明） A. 人間の尊厳とキリスト教 第2回：西洋思想史における人間の尊厳 第3回：キリスト教と人間の尊厳 第4回：東洋的人間観とキリスト教 ―第1回小テスト B. 現代社会における倫理的課題とキリスト教 第5回：文明の衝突 第6回：優生思想との対決 第7回：人権問題 第8回：尊厳死、安楽死 第9回：出生前診断と人工妊娠中絶 第10回：地球環境の破壊 ―第2回小テスト C. 現代に生きる私たちとキリスト教（グループワークと発表） 第11回：グループワークと発表の方法の説明、模擬発表「キリスト教と日本語」 第12回：学生グループによるワークと発表、質疑応答 第13回：学生グループによるワークと発表、質疑応答 第14回：学生グループによるワークと発表、質疑応答 第15回：現代におけるキリスト教の課題（講義の総括と展望） ―レポート課題の提出						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	・ 授業前準備学習：シラバスの各回授業のキーワードを図書やインターネットによって下調べをして、自分なりにノートにまとめる。グループワークの準備。（学習時間：2時間） ・ 授業後学習：授業で扱った内容をノートにまとめ、授業内で示した課題に取り組む（学習時間：2時間）						
授業方法	講義およびグループワークと発表。						
評価基準と評価方法	・ 2回の小テストとレポート課題50%（授業内容に関する理解と知識の定着度の確認） ・ 授業内での提出物50%（講義内容へのコメント、グループワークと発表への取り組み状況）						
履修上の注意	授業回数の3分の1以上欠席した学生は、原則として不合格とする。後半のC（グループワークと発表）の出席は必須とする。						
教科書	なし。随時プリントを配布する。						
参考書	浜口吉隆『キリスト教からみた生命と死の医療倫理』（東信堂） 長町裕司・高山貞美・永井敦子編『人間の尊厳を問直す』（上智大学）						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 (2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 (3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 (4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 神戸松蔭での学び 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教はどんな宗教か 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－日本とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－西洋文化の窓口としての神戸 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の建学とキリスト教 第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の歴史と発展 第8回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第9回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第10回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第11回 いのちを考える 第12回 いのちを考える－社会的実践 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第15回 授業内容のまとめと期末試験 ゲスト・スピーカー招へい予定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 授業で取り上げた内容に関する図書館資料を閲覧するとともに、書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 キリスト教文化、キリスト教美術に詳しいキリスト者のほか、教会関係者をゲストスピーカーとして招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（4）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。 期末試験：到達目標（1）から（3）の到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。 試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 (2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べるができる。【知識・理解】 (3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べるができる。【知識・理解】 (4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 神戸松蔭での学び 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教はどんな宗教か 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－日本とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－西洋文化の窓口としての神戸 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の建学とキリスト教 第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の歴史と発展 第8回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第9回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第10回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第11回 いのちを考える 第12回 いのちを考える－社会的実践 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第15回 授業内容のまとめと期末試験 ゲスト・スピーカー招へい予定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 授業で取り上げた内容に関する図書館資料を閲覧するとともに、書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 キリスト教文化、キリスト教美術に詳しいキリスト者のほか、教会関係者をゲストスピーカーとして招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（4）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。 期末試験：到達目標（1）から（3）の到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。 試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：木鎌 耕一郎					科目ナンバー	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 (2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 (3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 (4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 神戸松蔭での学び 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教はどんな宗教か 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－日本とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－西洋文化の窓口としての神戸 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の建学とキリスト教 第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の歴史と発展 第8回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第9回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第10回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第11回 いのちを考える 第12回 いのちを考える－社会的実践 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第15回 授業内容のまとめと期末試験 ゲスト・スピーカー招へい予定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 授業で取り上げた内容に関する図書館資料を閲覧するとともに、書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 キリスト教文化、キリスト教美術に詳しいキリスト者のほか、教会関係者をゲストスピーカーとして招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（4）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。 期末試験：到達目標（1）から（3）の到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。 試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ナンバー	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 (2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 (3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 (4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 神戸松蔭での学び 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教はどんな宗教か 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－日本とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－西洋文化の窓口としての神戸 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の建学とキリスト教 第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の歴史と発展 第8回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第9回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第10回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第11回 いのちを考える 第12回 いのちを考える－社会的実践 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第15回 授業内容のまとめと期末試験 ゲスト・スピーカー招へい予定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 授業で取り上げた内容に関する図書館資料を閲覧するとともに、書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 キリスト教文化、キリスト教美術に詳しいキリスト者のほか、教会関係者をゲストスピーカーとして招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（4）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。 期末試験：到達目標（1）から（3）の到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。 試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	神戸松蔭とキリスト教						
担当教員	単位認定者：待田昌二					科目ナンバー	Z11010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	神戸松蔭の歴史とキリスト教の精神を理解する						
授業の概要	この授業では、聖公会キリスト教とはどのようなものか、日本におけるキリスト教伝道および松蔭女子学院の歴史を知ることを通して、本学の建学の精神を学ぶ。それは同時に、本学が発展してきた神戸という土地とキリスト教の関わりから地域社会への貢献について考えることでもある。また、キリスト教と芸術・音楽の関わりを学ぶことから、キリスト教をより幅広く理解し、社会活動について具体的に学ぶことを通してキリスト教の愛の精神について考える。						
到達目標	(1) キリスト教の歴史と聖公会に関する基本的な知識及び神戸松蔭の歴史と建学の精神を説明できる。【知識・理解】 (2) キリスト教と芸術の関りの基礎的知識をもとに、キリスト教の西洋文化への影響を述べることができる。【知識・理解】 (3) キリスト教の活動とその愛の精神について述べることができる。【知識・理解】 (4) いのちと愛の学びから、他者への寛容や共生、地域社会への貢献の感覚を身につける。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 神戸松蔭での学び 第2回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－キリスト教はどんな宗教か 第3回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－聖公会とは 第4回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－日本とキリスト教 第5回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－西洋文化の窓口としての神戸 第6回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の建学とキリスト教 第7回 神戸松蔭の歴史とキリスト教－神戸松蔭の歴史と発展 第8回 キリスト教と文化－キリスト教と音楽 第9回 キリスト教と文化－礼拝と音楽 第10回 キリスト教と文化－キリスト教と美術 第11回 いのちを考える 第12回 いのちを考える－社会的実践 第13回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサ 第14回 なぜ人を助けるのか－マザー・テレサの活動の広がり 第15回 授業内容のまとめと期末試験 ゲスト・スピーカー招へい予定						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業後学習： 授業で取り上げた内容の要点と重要箇所を確認・整理する（学習時間2時間） 授業で取り上げた内容に関する図書館資料を閲覧するとともに、書籍、新聞、Webサイト等を通して関連情報を収集する（学習時間2時間）						
授業方法	講義 【実務経験のある教員等による授業】 キリスト教文化、キリスト教美術に詳しいキリスト者のほか、教会関係者をゲストスピーカーとして招き、社会における活動の経験を基にした講義を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での提出物60%、期末試験40%。 授業内での提出物：各回提出のリアクションペーパー（講義内容についてのコメント、質問）の内容・記述の的確さを評価する。到達目標（1）から（4）に関する到達度の確認。 リアクションペーパーのコメント・質問等について、翌週授業または松蔭ポータルで回答する。 期末試験：到達目標（1）から（3）の到達度の確認。						
履修上の注意	遅刻・中途退席、私語には厳しく対応する。 試験を行うので、各回のノートや配布物は保存しておくこと。						
教科書	使用しない						
参考書	授業において指示する						

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列							
科目名	新約聖書を学ぶ							
担当教員	木原 桂二					科目ナンバー	Z12040	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	新約聖書の思想							
授業の概要	「新約聖書」は、27冊の書物を取りまとめたものです。どの書物も、イエスによって証しされた「福音」が共通の基盤になっていますが、各書物の著者は、様々な地域や民族の出身者であり、それぞれが独自の思想を持っています。また、私たちとは異なる文化が背景にあるため、その内容を理解するためには乗り越えるべき高いハードルがあります。そこで本授業では、新約聖書を少しでも身近に感じ、その思想を生かすことができるように聖書本文とその背景についての学びを深めていきます。							
到達目標	(1) 新約聖書の四福音書それぞれの特徴の背景となっている歴史と成立の事情を理解できるようにする。 (2) イエスとパウロの思想の特徴を理解し、説明できるようにする。 (3) 新約聖書の思想を踏まえて、現代社会の諸問題について自分の意見を持てるようにする。							
授業計画	第1回 オリエンテーション 授業の目的と概要、評価基準、レポートについての説明 (入門) 新約聖書とは何か？—ユダヤ教からキリスト教へ 第2回 イエスの言行録①—共観福音書(マタイ・マルコ・ルカ)序説 第3回 イエスの言行録②—共観福音書(マタイ・マルコ)のイエス像 題4回 イエスの言行録③—共観福音書(ルカ)のイエス像／ヨハネ福音書のイエス像 第5回 使徒の時代—イエス以後の思想と信仰 第6回 新約聖書の思想イエス編①—エゴイズム 第7回 新約聖書の思想イエス編②—財産所有 第8回 新約聖書の思想イエス編③—隣人愛 第9回 新約聖書の思想イエス編④—暴力と平和 第10回 新約聖書の思想イエス編⑤—差別と和解 第11回 新約聖書の思想イエス編⑥—罪と赦し 第12回 新約聖書の思想イエス編⑦—子どもの人権 第13回 新約聖書の思想パウロ編①—人間の限界 第14回 新約聖書の思想パウロ編②—共同体(共に生きる集り) 第15回 全体のまとめ							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	キリスト教科目は、多くの受講生にとって予備知識が不足しがちです。以下の要領で予習・復習をしてください。 。授業前準備学習：新約聖書に慣れ親しむため、普段から聖書本文(日本語訳)を読み、疑問に思うことを書き留めるようにして下さい(学習時間：1時間)。それを教師に質問して頂ければ、授業に関連づける形で応答したいと考えています(質問内容は、下記「評価方法」に記載されている授業内小レポートに記述して頂きます)。 授業後学習：授業内に配布したレジュメを再読し、得られた知識を応用できるようにして下さい(学習時間：2時間)。							
授業方法	基本的に講義形式で行いますが、必要に応じてディスカッションをし、各授業のテーマを深めるようにします。							
評価基準と評価方法	①レポート評価 70% ②授業内小レポートの評価(不定期に実施) 30% ③私語や授業態度も減点の対象になるので注意してください。							
履修上の注意	聖書を持参して授業に出席してください。							
教科書	1. 『聖書』 ※翻訳は問いません。ご自分の聖書をお持ち下さい。 2. 毎回授業時にプリント(レジュメ)を配布し、そのレジュメに基づいて授業を進めます。							
参考書	参考書は、必要に応じて授業中に紹介します。							

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列							
科目名	パイプオルガン実習A／音楽実技ⅡA							
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバー	Z1212A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを美しく演奏する							
授業の概要	「パイプオルガンでコラール変奏曲を演奏する」パイプオルガン入門A Bでの学びの延長線上として、大オルガンでコラール変奏曲を演奏する。 その演奏に必要な要素として、大オルガンの音の鳴らし方の工夫、音の選び方について、及び、コラールについての学びと、コラールの歌唱も行う。							
到達目標	①四声体聖歌の演奏を、メロディーを歌うように演奏できるようになる。 ②四声体聖歌の演奏を、各声部を耳で追いながら、美しい音で演奏できるようになる。 ③コラール変奏曲の基になっている聖歌について知る。 ④コラール変奏曲の曲の仕組みを知る。 ⑤コラール変奏曲演奏のための、大オルガンの音の選び方、音の鳴らし方を習得する。 ⑥コラール変奏曲を、大オルガンで美しく演奏できるようになる。 ⑦楽器についての知識を深め、オルガンという楽器の特異性を実感することが出来る。							
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：二声での聖歌演奏の復習（身体の使い方） 第3回：二声での聖歌演奏の復習（美しい音の鳴らし方） 第4回：四声での聖歌演奏方法の探求（身体の使い方） 第5回：四声での聖歌演奏方法の探求（美しい音の鳴らし方） 第6回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌についての学び 第7回：選定したコラール変奏曲の基の聖歌の演奏 第8回：コラール変奏曲の演奏への取り掛かり 聖歌歌唱 第9回：コラール変奏曲の曲の構成について 第10回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の選定 第11回：コラール変奏曲に使用する音色や鍵盤の工夫 第12回：コラール変奏曲を題材に、美しい音の鳴らし方の工夫 第13回：コラール変奏曲演奏の完成 第14回：試験準備 第15回：試験とまとめ <実技試験>大オルガンで聖歌を四声で伴奏（全員で歌唱）、コラール変奏曲の演奏 <筆記試験>講義内容について							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	大オルガンの個人練習							
授業方法	解説、実習							
評価基準と評価方法	平常点（授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20%							
履修上の注意	定員10名程度 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤演奏経験者が望ましい パイプオルガン入門A Bの履修修了者であることが望ましい 3分の2以上の出席が必要							
教科書	特になし（授業時にプリントを配布）							

参考書	日本聖公会 聖歌集
-----	-----------

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン実習B／音楽実技IIB						
担当教員	上野 静江					科目ナンバー	Z1212B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2～3	単位数	1.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（初級）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンを用いてのパイプオルガン実技初級。 パイプオルガン入門で得た基本をもとに、オルガン音楽へのより幅広い理解を深める。 本学のパイプオルガンの特性を活かして、フランス古典、コラールに基づくオルガン作品を主なレパートリーとする。具体的な課題曲については、受講生に応じて個別に決定する。 また聖歌の伴奏についても取り上げる。						
到達目標	1) グレゴリオ聖歌に基づく小品（フランス古典）を演奏できるようになる。 2) コラールおよび詩編歌に基づく小品（ドイツバロック）を演奏できるようになる。 3) 聖歌と教会歴について、楽曲を通して体感できるようになる。 4) 松蔭のオルガンについて熟知し、様々なパイプの効果的な用い方を知る。						
授業計画	第1回 オリエンテーション（授業の進め方ほか）・課題曲選曲 第2回 フランス古典（1）フルート 第3回 フランス古典（2）ホルン 第4回 フランス古典（3）リード 第5回 フランス古典（4）ブランジュとグランジュ *F. クーブランなどフランス古典期の作品を通して、タッチ、ペダル奏法、レジストレーション等、様々な角度から本学のフランス古典様式のオルガンに対するアプローチの方法を探りつつ、基礎的事項を実習する。もとになったグレゴリオ聖歌についても取り上げる。 第6回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（1）コラール 第7回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（2）コラールと楽曲 第8回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（3）詩編歌 第9回 コラールおよび詩編歌に基づく作品（4）詩編歌と楽曲 *スウェリク、ベーム、ヴァルター、J.S. バッハ、クレブスなど、17～18世紀のコラールや詩編歌に基づく作品を取り上げる。もとになったコラールや詩編歌にも触れながら、各自が選んだ楽曲をよりよい演奏に仕上げていくためのプロセスを、技術的な問題、楽曲の解釈等あらゆる側面から探ってゆく。 第10回 会衆賛美の伴奏法（1）歌詞とレジストレーション 第11回 会衆賛美の伴奏法（2）テンポとフレージング *日本語の聖歌を1曲選び（できれば第6～9回で各自が取り上げたオルガン曲にちなんだものが望ましい）、会衆が歌いやすいテンポ、その聖歌の背景（歌詞の内容）、レジストレーションやペダリングなども模索し、前奏、1節、2節（レジストレーションを変えてみる）など、まずはシンプルなスタイルで伴奏できるようになることをめざす。 第12回 クラス内発表会の準備（1）レジストレーション等選定 第13回 クラス内発表会の準備（2）音を会堂に響かせる耳の作り方 第14回 クラス内発表会の準備（3）全体をまとめる 第15回 発表会（期末試験を兼ねる）と講評 *学期中に取り組んだ曲の中から、1～2曲のソロ曲と聖歌の伴奏を含む8分間程度のプログラムを組んで演奏する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲について、読譜の予習をし、配布資料等で下調べをする。（学習時間：1時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、次回までに反映できるように練習する。（学習時間：2時間） 練習のしかた、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。						
授業方法	チャペルにある大オルガンを用いての実技（グループレッスン形式）						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）学期末試験（40%）						

履修上の注意	鍵盤楽器経験があること。
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。
参考書	聖歌集（日本聖公会・日本基督教団・EG ほか）

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門A						
担当教員	伊藤 純子					科目ナンバー	Z1111A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンへのアプローチ ～楽器、礼拝、音楽の視点から～						
授業の概要	「パイプオルガンへ多角的に近づく」 ・パイプオルガンという楽器について、ルーツと発音の仕組み、歴史や国ごとの違いを学ぶ ・礼拝について、また礼拝と音楽との関係性について、概略を学ぶ ・オルガンで美しい音を鳴らす工夫と、実際に聖歌を歌い伴奏する体験をする * 以上について、知識だけではなく、視覚的・聴覚的・身体的体験からの習得の機会とする						
到達目標	①パイプオルガンという楽器について知る 1、しくみ 2、オルガンの歴史 3、オルガン音楽のレパートリー ②礼拝について知る 1、礼拝と歌・オルガンとの関係 2、教会暦とその音楽 ③上記①②により「パイプオルガンは息の楽器であり、礼拝と共に歩んできた」ことを習得した上で、実際に聖歌を歌い、美しい伴奏（ソプラノ声部とバス声部の二声）を行うことができる ④上記①～③の習得は、オルガン入門Bにおける四声体聖歌とコラール演奏のための導入となる						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：【楽器1】「ルーツと仕組み」パイプオルガンの三大要素について、楽器内部の見学 第3回：【楽器2】「笛について」様々な笛の観察と、それらの特色や違いについて 第4回：【楽器3】「オルガンのスタイル」国ごとのオルガンの特色や歴史と、そのスタイル 第5回：【楽器4】「音楽史」オルガン音楽のレパートリーの、音楽史上での位置づけについて 第6回：【礼拝1】「礼拝とは」ミサの起源、様々な礼拝について 第7回：【礼拝2】「礼拝における音楽」古代からグレゴリオ聖歌、現代の聖歌集まで 第8回：【礼拝3】「教会暦」クリスマス、受難節、イースターについてとその音楽 第9回：【礼拝4】「コラール」ルターの宗教改革からバッハのカンタータまで 第10回：【演奏1】「美しい音を鳴らす」オルガンのタンギングやタッチの工夫 第11回：【演奏2】「うた」聖歌の歌唱における、身体の使い方の体験 第12回：【演奏3】「指揮」聖歌の歌唱を指揮する体験 第13回：【演奏4】「二声での演奏1」10, 11, 12回の体験をもとにポジティブオルガンで奏楽 第14回：【演奏5】「二声での演奏2」各自の練習の成果をもとに大オルガンで奏楽 第15回：試験とまとめ ＜実技試験＞大オルガンで聖歌を二声で伴奏（全員で歌唱） ＜筆記試験＞講義内容について						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	オルガン練習室での個人練習（第6回授業以降）						
授業方法	講義形式の解説、音楽や映像の鑑賞、学生による実習 特に後半では、実技を中心に進める						
評価基準と評価方法	平常点（授業に臨む態度）60%、レポート20%、試験20% レポート提出2回、試験						
履修上の注意	定員20名 履修希望者多数の場合は、受講をお断りする可能性がある 鍵盤楽器経験者が望ましい 3分の2以上の出席が必要						

教科書	特になし（授業時にプリントを配布）
参考書	金澤正剛 著「キリスト教と音楽」＜音楽之友社＞ 大塚直哉 編「クラヴィス～むかしの鍵盤楽器を弾いてみよう～」現代ギター社 日本聖公会 聖歌集

科目区分	松蔭とキリスト教系列／キリスト教学系列						
科目名	パイプオルガン入門B						
担当教員	上野 静江					科目ナンバ－	Z1111B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	パイプオルガンを弾いてみよう（入門）						
授業の概要	チャペルにある大オルガンを用いてのパイプオルガン実技入門。 パイプオルガンを弾くための基礎的な奏法からはじめ、聖歌、さらに聖歌に基づく平易な小品を取りあげる。 楽器の構造、歴史、様式を踏まえた上で、演奏に必要な基礎的知識、技術を学ぶ。						
到達目標	1) 松蔭のオルガンについて、その特徴、概要を知る。 2) 聖歌集について、その内容や背景、使い方を知る。 3) 聖歌を歌詞や曲の意味を体現しつつ歌いやすく奏楽できるようになる。 4) 聖歌に基づくオルガン作品を演奏できるようになる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 パイプオルガンについての基礎知識 第3回 オルガン奏法の基礎（1）姿勢・呼吸 第4回 オルガン奏法の基礎（2）タッチ 第5回 オルガン奏法の基礎（3）ペダル 第6回 オルガン奏法の基礎（4）レジストレーション 第7回 聖歌を弾いてみる（1）旋律 第8回 聖歌を弾いてみる（2）和声 第9回 コラール前奏曲を弾いてみる（1）成立の背景 第10回 コラール前奏曲を弾いてみる（2）音色の工夫 第11回 松蔭のオルガンの概要とその特徴ある響きの所以を知る 第12回 クラス内発表会の準備（1）レジストレーション選定 第13回 クラス内発表会の準備（2）音を客観的に捉える訓練 第14回 クラス内発表会の準備（3）全体をまとめる 第15回 クラス内発表会（期末試験を兼ねる）とその講評 ＊学期中に取り組んだ曲の中から聖歌と前奏曲を1曲ずつ選び演奏する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：授業で扱う課題曲について、読譜の予習をし、配布資料等で下調べをする。（学習時間：1時間） 授業後学習：授業における指摘事項を振り返り、次回までに反映できるように練習する。（学習時間：2時間） 練習のしかた、曲への取り組み方については、授業内で詳しく指示します。 練習には学内にある練習用オルガンを活用して下さい。						
授業方法	実技（グループレッスン形式）						
評価基準と評価方法	毎回の授業における課題の到達度を平常点として評価（50%） レポート（10%）期末試験（40%）						
履修上の注意	鍵盤楽器の経験があること。						
教科書	プリントを配布。楽曲に関しては随時授業中に紹介していく。						
参考書	『クラヴィス』大塚直哉編 聖歌集（日本聖公会）						